

埼玉工業大学工学部
機械工学科 准教授

安藤 大樹

平成 17 年博士修了(博 40 回)



私は名古屋大学に平成 14 年から博士後期課程の学生として 3 年間、平成 17 年から助手・助教として 3 年半在籍しておりました。東山会には平成 18・19 年度に会計理事として運営の方にも関わらせていただき、大変勉強になる良い経験をたくさんさせていただきました。その後、平成 20 年に福井大学へ、平成 25 年に現職の埼玉工業大学へ移りました。教育・研究につきましては、メカトロニクスやロボット工学などの講義を担当するとともに、「柔軟構造の弾性大変形を利用して運動する機構の設計と制御」についての基礎研究およびロボットグリッパや内視鏡手術用鉗子などへの応用研究を行っております。

大学におりますと、「2018 年問題」という言葉を時折耳にします。日本では、2018 年に 18 歳人口が再び減り始める一方で、大学進学率がこれまでのようには伸びないとの予測から、大学進学者数が減少することが懸念されています。この問題は、大学経営への懸念として取り上げられることがほとんどですが、大学進学者数の減少は 4 年後には大卒者数の減少となりますので、産業界へも影響を及ぼすことでしょう。すでに「理科離れ」が工業に大きな影響を与えることが指摘され、その対策として子供たちに理科を実体験させる様々な取り組みがなされてきました。私も昨年度から日本機械学会関東支部埼玉ブロックの「工学・科学技術と親しむ会」という小中学生を対象とした事業に商議員として関わらせていただき、座学ではない体験型学習の重要性を体感しております。また、2018 年問題への対応として埼玉工業大学におきましても様々な取り組みが行われております。その中でもユニークなものとして、大学全体の様々な研究成果等を詰め込んだ電気自動車を製作するプロジェクトがあります。本学には工学部（機械工学科、生命環境化学科、情報システム学科）と人間社会学部（情報社会学科、心理学科）があり、各学部各学科の教員が各々の専門分野からプロジェクトに関わっています。大学見学にいらした高校生以下の方たちに多種多様な研究や技術を実物を前に体験も含めて短時間でわかり易くお伝えし、少しでも大学に興味をもつていただき、進学率向上に貢献できるよう取り組んでおります。

少子化が進む日本において、その将来を支える人材を育成する大学は、子供たちの目から見ても魅力的なところでなければなりません。大学生や大学院生に対

する教育のみならず、入学前の子供たちに実体験を通して「大学に入って、あんなことを学びたい！こんなことがしたい！」などと思っただけのような取り組みの重要性を再認識しております。



埼玉 Car (1号車)